

図書館だより

埼玉県立図書館

'81.9号



読書・音楽・人生

荊塚一三郎先生の書かれた「忘れえぬ人びと」を大変面白く読ませていただいた。筆者は浦和の県立図書館で多年先生の下で働いた者である。また、この本に出て来る人物で、先生と極めて親しかった一人は筆者の縁者である。こういう関係でこの本を身近なものとして読む事が出来たのであるが、これは読書の楽しみの一つである。

身近なものにするということは、音楽を聴く場合にもあるだろう。亡くなった作家の五味康祐氏はオーデオ評論・音楽評論の方でも有名であるが、氏の音楽関係の著書には、とりあげた曲と自己の人生とのかわり合いについて書かれている所が多いのが一つの特色であった。人生とのかかわり合いにおいて聴くとはつまり身近なものとして聴くという事である。人生のある局面でその曲が自分にどういった影響を及ぼしたかといふことは、曲の理解に大いに影響するに違い無い。ただ、こういう音楽の聴き方は邪道だと純粋好きの人は異議を申し立てるかも知れない。自己の人生経験の矮小さを越えて、音楽そのものからその意義をくみ取

れと。しかし、意義をくみ取るのは所せんこの矮小な自己でしかない。他人の意見をうのみにするならともかく、少しでも漱石のいう「自己本位」の姿勢に立とうとする限り、自己の人生経験から離れる事は出来ない。筆者は音楽については門外漢だが、曲の理解に人生経験の多寡が大いに影響することは確からしい。ここで経験というのは音楽についての経験だけではなく、広く人生全般の経験を指す事は言うまでもない。

この経験に影響されるという関係は読書の場合には更に大きいように思われる。ちょっとした入門書のたぐいでも、初めに読んだ時に比べて、その問題に対する知識・経験が増した段階で読み返した時の方が、本の内容がはるかに「よく見える」ことは、誰でも経験するところである。古典の場合はこう単純には割り切れないが、人生経験の熟するにつれて、今まで見えなかった面を現わすのは古典の特質である。人生は複雑であり人間の欲求もまた多様である。したがって読書の方法もいろいろあっていいし、読み捨て読書も時に必要だろう。しかし「読書百遍意おのずから通ず」の言葉があるように、読書の要諦は結局繰り返し読んで読む所にあるのではなからうか。(K)

20
1
2
3
4
5
6
7
8
9
130
1
2
3
4
5

昭和五十八年度全国図書館大会を迎えて

大会を迎えて

第六七回目の全国図書館大会が、関東地区の各県を当番県として、実際に当番の浦和の埼玉会館で開催（二〇月二九日～三一日）されることになりました。いうまでもありませんが、この図書館大会は明治以来毎年（一時やむなく休会）開催されてきたもので、まことに貴重な実績を持っています。

●さいたま大会の特徴

この大会の意義づけについては、即ち大会テーマについては、いま生涯学習が強く求められる社会的な風潮の中で、人間性回復へのよりどころとしての図書館活動のあり方を追求しよう、という、人間性を深める図書館活動の広がりを求めて」と題し、図書資料等を通じてのサービス、理想的あり方をあらゆる角度から検討し、実り豊かな結果を期待し努力を重ねています。

また一方、この大会を特徴づけるものとして、まず国際障害者年にちなむ多彩な催しをあげることができ、その一つは、国際図書館協会連盟の一員で、障害者奉仕の先頭に

たっている、米国議会図書館のヘンリー・パリス氏の特別講演があることとす。またこの大会中障害者奉仕用の自動朗読機等、欧米各国の最新機器類を一堂に展示する、特別企画を予定しています。

また第二日目はすべて分科会討議にあけ、分科会の討議に終始するわけですが、第一分科会の障害者奉仕のほかに、第二分科会の児童・青少年の読書のあり方について、学校現場の図書館からの声はもちろん、公共図書館・文庫グループ等からの問題提起、またそれらの間の相互協力のあり方等について話しあうことになっています。

一方、第一〇分科会では、出版流通の問題について討論しますが、今回特に日本図書コードの問題と、地方出版物情報網を全国的に広げようとするもので、この広域的情報網への本格的活用を図るための設定として、特に目立ちます。

更にこの大会から新たに設定されたものが、第一分科会の情報管理の討論の場です。これは情報文化

の担い手としての図書館で、特に書誌情報のより早い入手と、より広範囲への伝達とは、最近とみに進展した情報需要に対し欠かせない要素です。このため機械化による情報管理システムによって住民の多彩な読書要求に答えなければなりません。

●記念講演にも特色

次に大会の中心として記念講演があり、今年「自由民権百年」を迎えるという記念すべき年でもあり、この面でも第一人者とする色川大吉先生のお話をうかがうことになりました。いうまでもなく色川先生は日本近代史を専攻され、この種の著作もまた多彩です。例えば「明治の文化」「明治の精神」「明治の政治」等、まさに明治という日本近代化への夜明けを、時代的に、人間的に鋭く描いたものばかりです。一方「書物という鏡」などという一般的な著作もありました。

●タイムリーな特別企画

まず「自由民権百年」をとらえた、関係著作の展示と文獻目録の刊行です。特にかつて関東における自由民権運動は活発だったということですが、これらの情熱的な展開をあとづけた資料により、先覚者の人となりを学びとることは大変意義深いことと思ひ

ます。

自由民権運動が明治七年に、かの有名な板垣退助によって「民選議院設立建白書」が提出されたことにより、各地において、この運動への口火が切られた。それ以来百年の足跡の展覧です。つい最近ですが、有名な「板垣死すとも自由は死せず」と絶叫した言葉が事実だったという史実が、公にされたのも不思議な因縁です。これらの特別企画の展示によって、確かに先駆者の足跡をたづね、かむことができたなら、この埼玉大会のテーマ「人間性を深める図書館活動の広がりを求めて」とも深いかわりが生まれることになりましょう。

●おわりに

埼玉県の最近の人口は約五五〇万人ともいわれ、過密地域の図書館活動や一方過疎地域の図書館奉仕等さまざまな要素をかかえて、苦心を重ねております。特に出版文化の花ざかりの中で、量的にも質的にもけんらんそのものですが、図書館界の現状は、施設的にも資料購入の面でも不十分な状態におかれています。しかしともかく、この埼玉大会をなんとか成功させ、この豊かな知的結晶をもって、県内各地域にまたがる図書館風土を耕やすための良きめ

(次頁下段へ)

十六ミリ映画フィルムの利用について

近年、子供会などで映画会を開くことが多くなっています。今回はこれらの映画会で使われる十六ミリ映画フィルムの利用方法等についてお知らせします。



はじめに、利用出来る機関ですが、表のように県西地区（入間・比企）では県立川越図書館視聴覚課の外に、市町村の視聴覚ライブラリーがあります。映画会を開く場合には、まず住んでいる市町村の視聴覚ライブラリーに相談し、そこに求めるフィルムがない場合、又は住んでいる市町村に視聴覚ライブラリーがない場合には県立図書館視聴覚課を利用してください。その時利用のために必要な条件は、団体であること、映写する人が十六ミリ映写機操作認定証を持っていることです。操作認定証の交付は研修終了後、市町村の視聴覚ライブラリー又は教育委員会で行っています。次に、県立川越図書館で今年度前半に購入したフィルムのタイトルを紹介します。

視聴覚ライブラリー一覧

入間市図書館内	0429(95)6311
狭山市	0429(54)4646
入間市教委内	0429(64)1111
富士見市図書館内	0492(52)5825
川越市南公民館内	0492(43)0038
飯能市中央公民館	04297(2)3698
坂戸市	0492(81)1567
大井町	0492(61)0648

比企広域市自治振興センター内 0493(23)9331
町村組合

昭和56年度全国図書館大会分科会

分科会	主 題	会 場
1	障害者サービス	浦和市立浦和コミュニティセンター
2	児童・青少年の読書	埼玉会館大ホール
3	図書館政策	武蔵野会館
4	公共図書館	埼玉会館小ホール
5	大学図書館	浦和市民会館ホール
6	短大図書館	浦和市民会館コンサート室
7	専門図書館	婦人会館
8	図書館職員	自治会館
9	図書館学教育	浦和市民会館 705, 706
10	出版流通	ヴェルデ・ホール
11	情報管理	別所沼会館

てが見出せるなら、ただ祈念している状態です。皆様の御参加を得て

ともどもに学びたいと切にお待ちいたします。

埼玉の
文学

歌人とその作品

▼ 3 ▲

◇宮沢賢治

(明29・8・27～昭8・9・21)
 ・星の夜をいながらみつみつ
 ・山の山にひとりしなくかこほろぎ
 ・星あまりむらがる故みつみねの
 空はあやしくおもほゆるかも
 岩手県花巻の詩人、宮沢賢治は短歌も作った人で、特に盛岡高等農林学校の学生だった三十一、二歳ごろに、最も短歌に熱中したといわれています。大正五年八月、賢治は二十一歳、高農の二年生でしたが、絵画や浮世絵への関心がたかまり、帝室博物館見学のために上京しました。

盛岡高農時代の
宮沢賢治

そのおりに作った歌が、『校本宮沢賢治全集』第一巻に十首収録されています。そのなかの四首は秩父の歌で、はじめに掲げたのは「三ツ峯二首」と題された作品ですが、どこことなく、宮沢賢治らしい気韻を漂わせています。あとの二首は、「小鹿野」と題して、「さわやかに半月かかる薄明の秩父の峽のかへり道かな」、「荒川上流」と題して、「鳳仙花実をはじきつつ行きたれど峽の流れの碧くかなしも」というのでした。宮沢賢治は詩人として、童話作家として、また農業研究者、農村指導者として活躍しますが、昭和八年九月、三十八歳の若さで亡くなりました。亡くなる前日に書いた最後の作品も二首の短歌で、その年の稲作のことを心配して歌った作品が残されています。

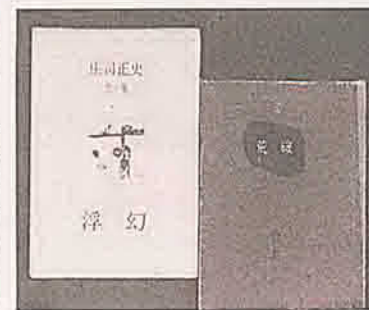
◇庄司正史

(大1・8・31～昭55・5・15)
 ・生くるため沈痛に堪へ忍ぶこと五
 十路のわれにまたありし今日
 ・夜遅く帰りし家に起きてゐし古妻

と小さき金魚幾匹

昨年五月病没した庄司正史は千葉県野田市の生まれでしたが、長く春日部市樋堀に住んでいました。「香蘭」を経て北原白秋に師事し、「多磨」に所属していましたが、戦後は埼玉で発行された「鶏苑」「作風」を経て、晩年は白秋系の「長風」に作品を発表していました。

昭和四十四年、第一回埼玉文芸賞を受賞、歌集には「荒磯」(昭41)



庄司正史の2冊の歌集

「浮幻」(昭49)があります。埼玉県歌人会の常任委員を長くつとめました。生来歩行不自由で、松葉杖の歌人でした。長く春日部市役所に勤務、会計課長、水道課長、市立図書館長などを歴任、重厚な人柄を敬愛されていました。
 ・現身の足腫むとき上り下り辛き二階に職場移りつ



在りし日の 深野庫之介

・街裏を見下す部屋に職移り小吏の
 われはまた励むべく
 「浮幻」のなかの職場詠ですが、このような人生的詠嘆の深い作風は歌壇でも大切にされ、現代歌人協会の会員となっていました。

◇深野庫之介

(明30・10・6～昭47・6・30)
 ・帰りたく恋うる故郷にあらねども
 思出は愛し木立も川も
 ・北に流るる天つ白雲追うごときすがたに老いて銀杏紅葉す
 深野庫之介(ふかの・くらのすけ)は越谷市の生まれでした。若いころに北原白秋の門に入り、大正十二年には「香蘭」の創刊に参画、後には同誌の選者となりましたが、昭和四十四年には独立して「隕石」を創刊主宰し、多くの門下を育てました。いわゆる歌壇を顧みない孤高の作家として知られていましたが、没後もその門下によって「隕石」は通巻百

号まで続刊されました。生前の歌集

には『流氓』(昭26)、『深野庫之介短歌集』(昭40)がありますが、没後の昭和四十八年六月には、残された門下の人々によって遺歌集『北に流るる』が刊行されました。

早稲田大学文学部中退後、昭和七年ごろまで本籍地の旧桜井村で村長をつとめたりしましたが、その後故郷を離れて、広島から大陸へ渡り、終戦で帰国した後も北海道に住んで新聞記者などをしていました。いわば放浪の生活でしたが、さまざまな職業を遍歴しながら、あくまでも文学への姿勢を崩さず、晩年は埼玉に帰って、故郷にほど近い春日部市武里団地に住んでいました。

◇若山牧水

(明18・8・24～昭3・9・17)
 ・飲む湯にも焚火のけむり匂ひたる
 山家の冬の夕餉なりけり
 ・山みちの落葉ふみつつおのづから
 おもふかなしき妻子がこを
 旅の歌人、若山牧水が秩父を訪れたのは大正六年でした。「十一月のなかば、打続きたる好晴に乗り秩父なる山より溪を歴巡(へめぐ)る、その時の歌」と詞書のある「秩父の秋」は、九十六首に及ぶ大作で、掲

秩父市羊山公園の
若山牧水歌碑

出の二首はそのなかの作品です。妻子をしのんで歌っていますが、このころ喜志子夫人との間には、四歳になった長男の旅人がいました。

二度目に牧水が秩父を訪れたのは大正九年で、長瀬に一泊、汽車で秩父へ出て、秩父から徒歩で妻坂峠への道をたどります。この時は三十九首の作品を「秩父の春」としてまとめています。その中の一首、
 ・秩父町出はづれ来れば機械の唄こ
 多づく古りし家並に
 の歌は、秩父市の羊山公園に歌碑として残されています。

「秩父の秋」は歌集『溪谷集』に「秩父の春」の方は歌集『くろ土』にそれぞれ収められています。『溪谷集』の方は筑摩書房版『現代短歌全集』第四巻でも見ることができま

坂戸市立図書館

資料の充実をめざして

「最近坂戸市に越してきた者ですが、私の家の近くには図書館はないのですか。」坂戸市立図書館には、よくこんな問い合わせが寄せられます。

坂戸市立図書館は、東西に細長い坂戸市のほぼ中央にあります。「八キロメートル先の市民の方に、どう

奉仕したらよいのか」というのが、当面の問題といえましょう。銀行跡の建物を使用して、蔵書四千二百二十冊で開館したのは、昭和四十九年七月のことでした。開館当初は、利用者本を借りていくと、書架に本がなくなってしまうのでは?ということ心配するような図書館でした。しかし、階段を一段一段踏みしめて登るような形で、現在に至り、蔵書三万五千冊・職員六名の図書館に成



長しました。

本年度は、「魅力ある蔵書は、利用者を引きつける」ということから特に選書については、全職員が多くの時間をかけて検討しています。

その他、講演会・読書感想文の募集、六つの読書会の育成、児童に対しては、紙芝居・映画・天気図を見る会、郷土歴史教室を行っています。また、図書館だよりの発行や、市政だよりを通して、広く市民に図書館の利用を呼びかけています。

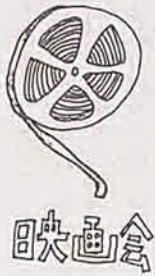
平均年齢二十九歳の若い人達の住む熱気のある市にふさわしい市立図書館をめざして資料の充実を進めるなど、職員がフル回転している今日この頃です。

昭和五十八年度には、新館がオープンする予定です。



坂戸図書館全景

東西南北



- 映画会 10月20日(火) 13時30分
「歴史の都・京都」ほか (県立久喜)
- 名画鑑賞会 10月24日(土) 10時・13時30分
「藍より青く」 (県立久喜)
- 映画会 10月27日(火) 13時30分
「修学院離宮」ほか (県立久喜)
- 読書週間映画会 11月6日(金) 10時・14時
「平安の四季」カラー20分「日本の心を求めて」カラー25分「最上川のうた」カラー47分 (県立川越)
- 読書週間映画会 11月7日(土) 10時・14時
「奥の細道」カラー30分「世界名作の旅」アンネの日記「カラー25分「アンデルセンの世界」カラー28分 (県立川越)
- 映画会 11月10日(火) 13時30分
「みんなで生きるために」ほか (県立久喜)
- 映画会 11月13日(金) 12時15分
「日本の伝統音楽・琵琶」カラー22分「秩父のぼくじ抄」カラー20分 (県立熊谷)
- 第二土曜映画会 11月14日(土) 13時30分
「山の子平太」「手のひらの詩」「ピーターと狼」 (県立浦和)
- 名画鑑賞会 11月14日(土) 10時・13時30分
「ピッピの新しい冒険」ほか (県立久喜)
- 県民の日映画会 11月14日(土) 10時・14時
「玩具夜ばなし」カラー10分「海なし埼玉の水産」カラー10分「自然とどうぶつぼくらの友だち」カラー20分「手」伝説をつくる」カラー28分「秩父夜祭」カラー30分 (県立川越)
- 名作映画鑑賞会 11月21日(土) 13時30分
「涙をたらした神」カラー120分 原作・吉野せい 脚本・新藤兼人 監督・神山征二郎 近代映画協会作品 出演・榎山文枝 風間杜夫、河原崎健三ほか (県立熊谷)
- 映画会 11月24日(火) 13時30分
「ある青春」ほか (県立久喜)
- 映画会 12月8日(火) 13時30分
「けやきの空に」 (県立久喜)

- 名画鑑賞会 12月19日(土) 10時・13時30分
「伊豆の踊り子」ほか (県立久喜)
- 映画会 12月22日(火) 13時30分
「若草の詩」 (県立久喜)
- 10月24日(土) 13時30分
中国音楽・漢民族と蒙古 ウィグル民謡とベンガル民謡 バグダードのアラビア音楽から 映画・「幻の錦」カラー43分 (県立川越)
- 10月28日(火) 12時15分・13時15分
シェンベルク 交響詩「ペレアスとメリザンド」カラヤン指揮 ベルリンフィル (県立熊谷)
- 11月11日(火) 12時15分
浪曲「紀伊国屋文左衛門(紀文の船出)」梅中軒鶯童 (県立熊谷)
- 11月21日(土) 14時
「シヤンソン特集」 (県立浦和)
- 11月28日(土) 13時30分
ベートーベン・弦楽四重奏曲第14番 スメタナ弦楽四重奏団 ※他に新着レコード紹介 (県立熊谷)
- 毎月第1金曜日と第3金曜日 13時30分
(県立久喜)



催しもの

- 第3回本を読む県民のつどい
日時 11月19日(木) 13時・16時
演題 「小説を読むということ」
作家 河野 多恵子氏
会場 本庄文化会館 (県立熊谷)
- 「堀保己」資料展
期間 11月25日(水)・29日(日)
会場 県立浦和図書館ホール (県立浦和)
- 問い合わせ先
○県立浦和図書館 浦和市高砂三丁目二二 TEL 〇四八八二二九二二八二
○県立熊谷図書館 熊谷市箱田五丁目一 TEL 〇四八五二二三六二九一
○県立川越図書館 川越市新宿町一丁目一七 TEL 〇四九二一四四一五六〇二
○県立久喜図書館 久喜市下早見八五 TEL 〇四八〇二二二二六五九



郷土の
文芸雑誌

- 第7号の続編として、郷土の文芸雑誌を紹介します。
今回は、7号では取り上げられなかった、総合文芸誌、評論誌、随筆誌などで、県内で刊行され各県立図書館において、継続して受け入れられている文芸雑誌です。
記載の内容は、以下の順になっています。
- 誌名、代表者(主宰)、発行所、住所、電話番号、刊行頻度、創刊年月、所蔵館名
なお、詳細については、各県立図書館にお問い合わせください。
- 赤い風船 赤い風船編集室
岩槻市太田261-129
0487-58-0582
季刊 昭52・1 (浦・熊)
戸田市新曽329
0484-42-2544
- 不定期刊 昭37 (浦・熊・川)
大宮文芸 大宮市教育委員会
大宮市大門3-1
0486-43-3113
年刊 昭49・3 (浦)
海峡 野本伊之助
上尾市上野997-13
0487-25-2114
年2回刊 昭36・8 (浦・熊)
川のある町 越谷市読書グループ連絡協議会
越谷市越谷4-1-14市立図書館内
0489-64-2111
年刊 昭50・12 (浦・熊・川・久)
草笛 市川栄一 日本児童文学者協会秩父支部・秩父児童文学の会
秩父市上町2-13市川栄二方
0494-22-5773
不定期刊 昭44 (浦・熊)
くぬぎ(高橋忠司随筆誌) 高橋忠司
桶川市下日出谷925-155
0487-86-0225
年刊 昭53・10 (浦)
群青 島村樹佳 群青事務局
南埼玉郡宮代町川端578
0480-34-5168
年3回刊 昭52・10 (浦)
櫻 鈴木とみお 同人誌「櫻」の会
浦和市別所208-15
0488-63-9498
年2回刊 昭55・6 (浦)
- 郊外文学 郊外文学会
大宮市高島町2-311田口方
0486-41-1202
年3・4回刊 昭38・8 (浦)
湖上 草壁昭太 湖上社
所沢市北秋津143-9
0429-24-8858
隔月刊 昭54・5 (浦・熊・川)
高麗峠 森和夫・田中愛祐 奥武蔵文芸会
飯能市本町3-10田中方
0429-73-2157
季刊 昭49・6 (浦・熊・川)
埼玉風景 但馬太良 埼玉風景同人会
浦和市大字田島4-0田島団地1-5
1109 0488-62-6223
月刊 昭41・10 (浦)
蔵王文学
大宮市中川924-9堀江方
0486-86-2073
年刊 昭35・6 (浦・熊)
しゃぼんだま(シヨートどうわ集)
秩父・子どもの本を読む会
秩父市上町2-13市川栄二方
0494-22-5773
不定期刊 昭54・12 (熊)
獣神 伊藤明治郎 獣神の会
大宮市二ツ宮18-19伊藤気付
0486-22-5130
年2回刊 昭53・12 (浦・熊)
修羅 吉野富夫 修羅同人会
- 行田市桜町2-24吉野富夫方
0485-56-1772
年2回刊 昭45・6 (浦・熊)
新作家 井野川潔 新作家協会
浦和市瀬崎326
0488-86-3434
年2回刊 昭26・5 (浦)
セコイア 松本建彦
狭山市入間川1507-19
0429-57-1802
年刊 昭49・7 (川)
友達 友達の会
大宮市三橋3-133
0486-43-1455
年2回刊 昭42・1 (浦)
華 北本市役所文芸部
北本市本町1-111
0485-91-1711
年刊 昭47・12 (浦・熊)
ひぐらし 柳繁夫・島村晃 茅渟本店
三郷市彦成4-4-21-404柳方
0489-58-5682
与野市上落合800島村方
0488-54-7660
年2回刊 昭52・12 (浦・熊)
風紋 小野梯次郎
戸田市新曽原1843-5
0484-41-5539
年3回刊 昭45・8 (浦・熊)
文芸いるま 入間市教育委員会

おたすねください

活字の大きい辞典は？

問 老人が読めるような活字の大きい辞典に、どのようなものがありますか？

答 高齢化社会の進行と国際障害者年ということもあり、最近いくつか出版されています。弱視者を対象としたものに、マイ・英和辞典、どちらねこ工房刊、研究社版をオフセット印刷したもの。視距離の限界からB5判の大きさ、反射をさけて薄く刊行されます。

クリーム地にするなどの配慮がされています。昭和46年頃、原本の1.5倍の大きさの広辞苑（岩波書店刊）をはじめとし、アボロ英和辞典、和英辞典（研究社刊）明解古語辞典、新クラウン英和辞典（三省堂刊）新字源愛蔵版（角川書店刊）が刊行されましたが、いずれも限定出版のため入手困難となっています。なお、「埼玉福祉会」より用字用語辞典（東京書籍刊）が、近く刊行されます。

また、ちよつと字が読みにくくなった人を対象としたものに、大きな活字の漢字表記辞典（三省堂刊、漢字の部分が大きな活字にしてあります。携帯本に対して机上版として、やや大きい活字となっている広辞苑や、大修館新漢和辞典などもあります。その他、辞典ではないが読物として、「埼玉福祉会」の大活字本シリーズ61冊や、「どちらねこ工房」の児童書等があります。

- | | | | |
|----------------------|---------------------|--------------------|------------------|
| 入間市豊岡11611 | 年2回刊 昭53・8 (浦・熊・川) | 04297・3・2111 | 北本市本町11111 |
| 0429・64・11111 | 文芸埼玉 埼玉県教育委員会 | 年刊 昭56・2 (川・久) | 0485・91・17111 |
| 年刊 昭54・3 (川) | 浦和市高砂31511 | 文芸未来 安芸由夫 文芸未来編集部 | 年刊 昭52・3 (浦・熊) |
| 文芸桶川 桶川市教育委員会社会教育課 | 0488・24・21111 久) | 所沢市本郷855121中里方 | 立像 桂英澄 「立像」編集委員会 |
| 移動図書館・文芸桶川発行委員会 | 年2回刊 昭43・11 (浦・熊・川) | 0429・44・5936 | 浦和市岸町41513 |
| 桶川市末広218 | 文芸さかど 中島嘉津男 坂戸文芸協会 | 季刊 昭52・5 (熊) | 0488・22・2726 |
| ・0487・28・41111 | 坂戸市花影911 | 文芸八潮 土橋治重 八潮文芸懇談会 | 年112回刊 昭30 (浦) |
| 不定期 昭55・11 (浦・熊・川・久) | 0492・81・0283 | 八潮市大字二丁目90八潮市企画課内 | |
| 文芸川越 文芸川越編集委員会 川越市 | 年2回刊 昭50・7 (浦・熊・川) | 0489・96・21111 | |
| 教育委員会 | 文芸秩父 長橋正 秩父文化の会 | 年刊 昭55・6 (浦・熊・川・久) | |
| 川越市元町11311 | 秩父市大字寺尾177111 | 分水嶺 石堂清 分水嶺社 | |
| 0492・24・8811 | 0494・24・9458 | 東松山市若松町11714 | |
| 年刊 昭56・3 (熊・川・久) | 季刊 昭52・5 (浦・熊) | 0493・23・8758 | |
| 文芸事始 高山香 事始の会 | 文芸はんのう 文芸はんのう編集委員会 | 年2回刊 昭49・8 (浦・熊・川) | |
| 所沢市寿町2518 | 飯能市教育委員会 | むくろじ 北本市文化団体連合会・中央 | |
| 0429・22・2401 | 飯能市大字双柳111 | 公民館・北本市教育委員会 | |

編集後記

第九号を送ります。内容は全国図書館大会を、埼玉ではじめて迎えたので、その歓迎の意味を込め大会の特徴について述べ、さらに読書週間にちなんで、読書の進めを「視点」としてとらえ、秋の夜長の読書音楽へのさそい、ひいては人生と読書にかかわる話を中心といたしました。また毎号お楽しみのことと思いますが、この号でも埼玉という風土でこよなくつかしい名作を、また豊かな作品を残していた、作家達の足跡を追ってみました。これからは、もっともつと沢山の作家にご登場願えるよう苦心を重ねていますので、どうか埋れていった埼玉ゆかりの作家について、皆様の記憶をよみがえらせて下さい。切にご指導・ご助言をお願いします。